

【高等学校】

探究活動をすすめよう！

～「探究のプロセス」と「校内体制づくり」の充実を通して～

新学習指導要領において、解決が容易でない現代的な諸課題に対応していく資質・能力を教科等横断的な視点で育成することが求められています。

高等学校では、「総合的な探究の時間」を教育課程の中核に位置付け、学校の教育活動全体で資質・能力を育成するカリキュラム・マネジメントを行う必要があります。



探究活動を推進するためには、どうすればいいかな？

生徒が主体的に取り組むためには？

探究について共通理解を深めたい！

調べ学習で終わらせたくない！

校内研修をしたいけれど、どんな内容にしたらいい？

総合的な探究の時間の授業を改善したい！

【視点①】
探究のプロセスに関する取組

総合的な探究の時間を学校全体の取組にしたい！

【視点②】
校内体制づくりに関する取組



総合的な探究の時間とは

文部科学省 2018 『高等学校学習指導要領(平成30年告示) 解説 総合的な探究の時間編』より作成

総合的な探究の時間の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

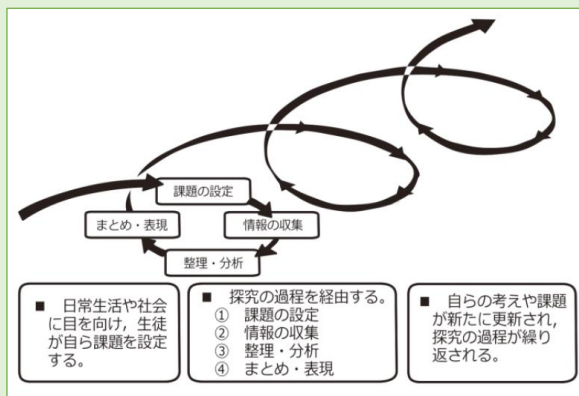
知識及び技能

思考力、判断力、表現力等

学びに向かう力、人間性等

資質・能力の三つの柱

探究のプロセス



目標は、資質・能力の三つの柱で整理されています。



探究の過程(①課題の設定、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・表現)を発展的に繰り返していくことを探究のプロセスといます。

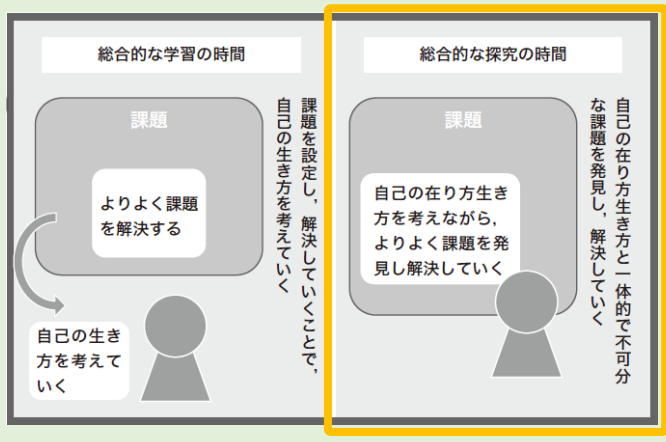
探究のプロセスを支えるのが、探究の見方・考え方です。



探究の見方・考え方

各教科・科目等における見方・考え方を総合的・統合的に活用して、広範で複雑な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究し、自己の在り方生き方を問い続ける。

課題と生徒との関係



小・中学校の「総合的な学習の時間」は、課題を解決することで自己の生き方を考えていく学びですが、高等学校の「総合的な探究の時間」は、自己の在り方生き方と一体的で不可分な課題を自ら発見し、解決していくような学びを展開していくことを目指しています。

自ら課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することが求められています。



総合的な探究の時間の取組を充実させるために

【視点①】 探究のプロセスに関する取組

「課題の設定」、「情報の収集」、「整理・分析」、「まとめ・表現」の取組を充実させることが大切です。



生徒が探究の過程を理解し、自律的に探究活動を行うには、授業における様々な工夫が求められます。
→ P.4へ

【視点②】 校内体制づくりに関する取組

「校内推進体制の整備」、「教職員の研修」、「外部との連携」の取組を充実させることが大切です。



質の高い豊かな学習活動を実施するために、校内体制の整備が求められます。
→ P.6へ

『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説総合的な探究の時間編』では、「総合的な探究の時間を教育課程の中核に位置付けるとともに、各教科・科目等との関わりを意識しながら、学校の教育活動全体で資質・能力を育成するカリキュラム・マネジメントを行うこと」とされ、総合的な探究の時間の教育課程上の重要性が示されました。

カリキュラム・マネジメントを行うためには、学校全体で総合的な探究の時間の意義、目標や内容について共通理解を図る必要があります。また、学校の実態に応じて、年間の見通しをもつ、振り返り行う等の工夫をし、取組を共有していくことが重要です。



調査研究協力校

県立舞岡高等学校

研究主題：SDGs(※)の視点を取り入れて、自己や社会を関連付けて課題を発見し、主体的かつ協働的に、解決の方法を見出していく探究の資質・能力を養う教育プログラムの開発

(※)SDGs：持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)

県立藤沢西高等学校

研究主題：自己実現と社会貢献における「総合的な探究の時間」の研究開発及び検証



【視点①】探究のプロセスに関する取組

教職員の声

- 生徒が自分の興味・関心のあることからテーマを考えるための新たな視点をもちづらいため、課題を設定する前に様々な視点があることに触れさせたい。
- 全体的な見通しや個々の活動の目標を示し、スモールステップで展開した方がよい。
- 成果発表会を実施し、全学年の生徒・教職員が成果を共有できたらよい。

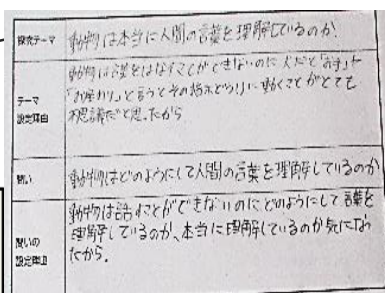
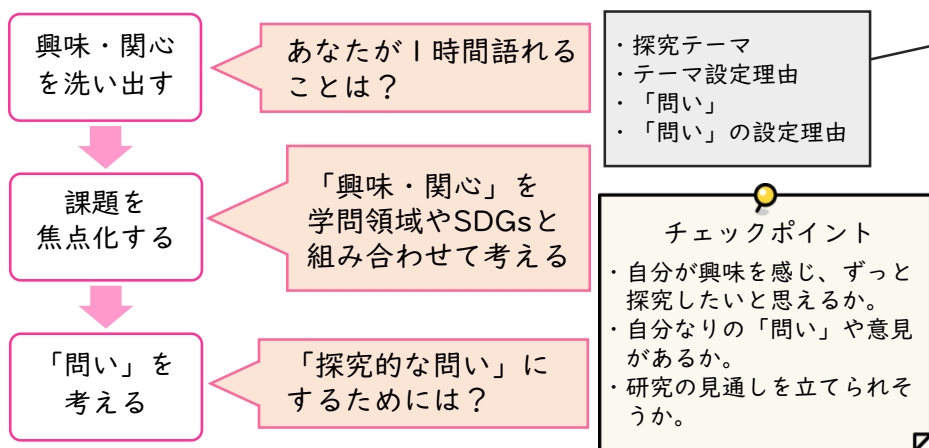
探究のプロセスを充実させるための授業実践①

【舞岡】

生徒が自分事として課題を設定しながら探究活動に取り組むために、特に「課題の設定」においてスモールステップを意識した丁寧な指導を工夫しましょう。

～「課題の設定」における取組の例～

生徒が記入したワークシート



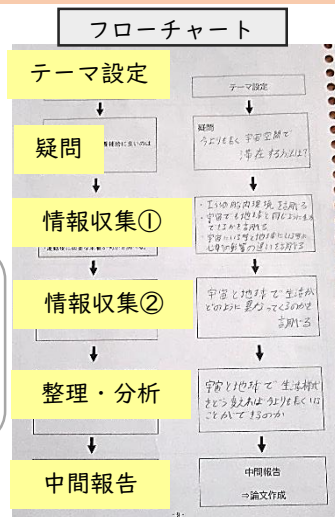
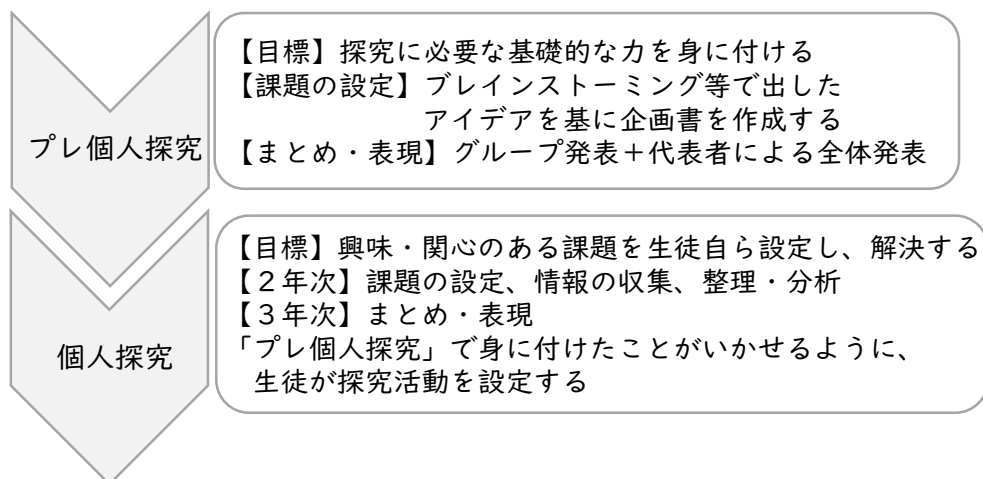
探究のプロセスを充実させるための授業実践②

【舞岡】

生徒が探究のプロセスを理解し、探究の過程において必要となるスキルを習得できるよう、段階的な指導を工夫しましょう。ここでは基礎となる探究活動を最初に設定し、問題解決・課題解決の資質・能力を高める取組の一例を紹介します。

～取組における目標等の例～

生徒が記入したワークシート



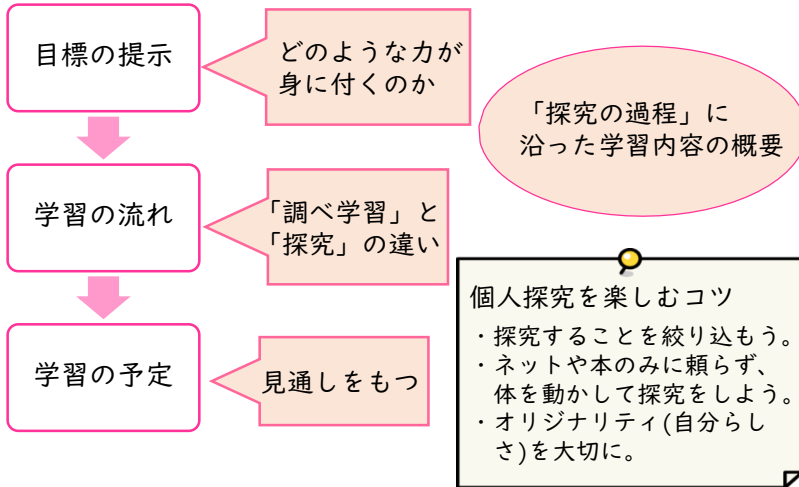
- 舞岡高等学校の取組……【舞岡】
- 藤沢西高等学校の取組…【藤沢西】

「生徒用テキスト」の活用

【舞岡】

「生徒用テキスト」は、育成を目指す資質・能力、学習計画、探究活動に必要なスキルの解説や授業で使うワークシート等がまとめられています。そのため、生徒も教職員も目標や全体像を確認することができます。

【参考】1 個人探究って何？



【参考】7 中間報告作成用 アウトライン・シート

- ・探究テーマと探究課題
- ・テーマ設定の理由
- ・仮説
- ・情報収集の方法
- ・情報収集の結果
- ・考察
- ・今後の課題・目標・方向性

テーマが自分事になっているかどうか大切です！



～テキスト編～

- 1 個人探究って何？
 - 2 探究課題を見つける
 - 3 情報収集の方法を学ぶ
 - 4 情報の整理と論文の書き方
- ～ノート編～
- 【2年次】
- 5 個人探究① 学習内容記録表
 - 6 個人探究① 学習の記録
 - 7 中間報告作成用 アウトライン・シート
 - 8 個人探究① 中間報告の概要
 - 9 個人探究① 中間報告の自己評価
 - 10 個人探究① 半期の自己評価

「生徒用テキスト」
目次

～計画書・報告書編～

- 17 個人探究 全体計画書
- 18 個人探究① フローチャート
- 19 個人探究 研究計画
- 20 個人探究② フローチャート
- 21 個人探究② 研究計画
- 22 実地調査計画書
- 23 実地調査記録シート
- 24 アンケート計画書

～下書き・メモ編～

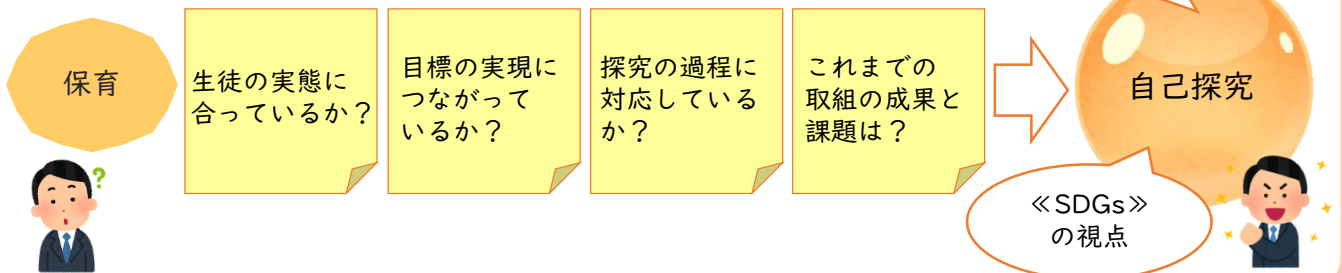
- 25 参考文献記録簿
- 26 インターネット検索記録簿
- 27 情報カード整理簿
- 28 お礼状下書き用紙
- 29 下書き用原稿用紙
- 30 メモ欄

テーマの見直し

【藤沢西】

生徒が課題を自分事と捉え自律的に探究していく工夫やテーマの見直しを継続的に行いましょう。探究のプロセスに関する取組は、生徒の実態に合わせて行うことが成果につながります。学校全体で生徒の活動を共有し、振り返る機会を設定することも重要です。

～前年度までのテーマを見直す～



【視点②】校内体制づくりに関する取組

教職員の声

- 「何のためにやっているかわからない」という状態にならないために、研修会や課題共有のためのワークショップ等の機会をつくる必要がある。
- 生徒の校外活動を数多く取り入れるようにした方がよい。
- 生徒が疑問をもちそれについて調べる、考える時間と、授業の内容を進めていく時間とを同時に進めていく授業づくりをするのが難しい。

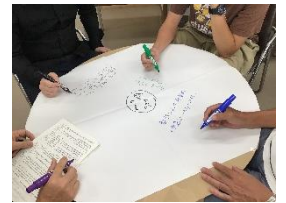
校内研修会

【藤沢西】

校内研修会を行うことで教職員間の共通認識をもちましょう。内容は学校の実態に合わせて、目標やねらいの共有ができること、学校全体の取組につながります。

～校内研修会の例～

校内研修会	
ねらい	教科・科目の授業と「総合的な探究の時間」を接続する視点をもつ
内容	①「探究」についての講義 ○学習指導要領改訂の趣旨確認 ○学校が育てたい生徒像とこれからの社会で求められる人材の共通点の確認 ②グループ討議1 「総合的な探究の時間」と教科・科目の関連が意識されにくい原因について考える ③グループ討議2 「探究の見方・考え方」と「各教科等の見方・考え方」を比較し共通点等を見だし、相互の関連性について考える



～校内研修会実施方法のアイデア～

職員会議後等の時間を有効に活用して、総合的な探究の時間に係るミニ職員研修会を実施することもできます。探究活動の指導力向上、各学年における探究活動の取組状況の共有を定期的に行うことで、学校全体で取組を共有しましょう。

探究活動を取り入れた校内研究授業

【舞岡】

校内研究テーマ等を踏まえて、教科内で授業案を考え、各教科で探究活動を取り入れた授業を実践してみましょう。

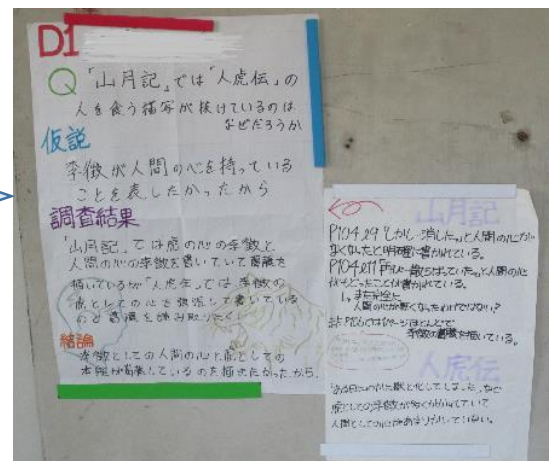
校内研究テーマ

「生徒が主体的に学べるような探究型授業」

教職員の声

探究のことを考えるようになってから、教科指導においてもどう問いかけをすれば生徒が深く考えるかが分かるようになりました。

授業の成果物を廊下に掲示





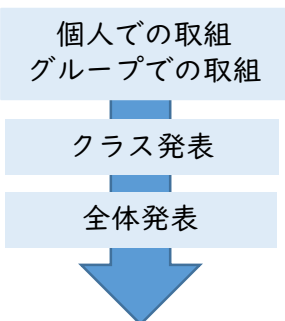
「コンソーシアム事業」の活用

【藤沢西】

○外部との連携

「県立高校生学習活動コンソーシアムの取組」を活用して民間企業と連携し、探究活動を推進することもできます。学校が外部と密に連携をとることは、生徒の視野を広げ、社会的な問題等を身近に捉え、探究活動を行うことに有効です。

○取組の内容



発表タイトルと生徒が記入したワークシートの一部

発表順	タイトル	発表順	質問	感想
3	Let's go to school	3	映像授業などにおける言葉の壁はどのように解決するのですか??	ユニセフの基金委員のクラブなど、今まで分かっていても目で見ることはなく、実感するタイミングのない問題だったので、問題の深刻さを初めて知りました。問題解決が企業や社会までではなく、個人での取り組みもあり、興味がわきました。
4	色の効果もたらすジェンダー差別	4	どうしたら色によるジェンダー問題は是正されると考えていますか??	初めに動画を見せることにより、全体が発表に集中しやすいと思いました。ジェンダー問題について色に注目することで問題が分かりやすいなど思いました。色をはじめとするジェンダー差別について今の自分ができることはないか考えることができました。
5	死んだプラスチックを再生させたい	5	日本や、個人的にできる取り組みはありますか??	単語や取り組みについて、難しいことも多いと感じましたがゆくりとした話し方や説明もついて発表についてより聞く姿勢がとれたと思いました。実物や具体例もあり、問題解決が世の中の的に進んでいるということを実感しました。

学校独自の評価規準表

【藤沢西】

学校独自の評価規準表を活用することは、身に付ける資質・能力について、教職員や生徒が共通理解をもって探究活動をすすめることに効果的です。教職員が評価規準について共通理解をもつことができるように工夫して、改善・修正をしながら学校全体で共有していくとよいでしょう。



	観点	観点の具体
技能・知識	知力・学力	各教科の内容を理解し、活用する力
	情報収集能力	複数の情報を収集できる力
	計画力	主題の発見から結論に至る過程を計画的に進める力
表現力	課題発見力	複数の情報から解決すべき課題を見つける力
	原因分析力	課題の背景や要因をデータに基づき分析する力
	論理的思考力	客観的なデータや先行資料を用いて理論を展開する力
	発信力・受信力	自分の考えを分かりやすく伝える力
態度	協働力	他者の価値観を尊重しつつ、他者と協力し一つのものを成し遂げる力
	メタ認知力	自分の行動や考えを客観的に考える力
	自己実現力	自己の人生と社会を結びつけ、多くの情報から生き方について考える力

校内推進体制の整備の例

校内体制づくりは学校の実態に応じて整備する必要があります。教職員一人ひとりが総合的な探究の時間を学校全体の取組として捉え、実践していくことが求められます。

【舞岡】ワーキンググループ

- 構成：広報・研究グループの教職員
- 特色：授業内容の計画・検討、実施の前には学年で教職員の共通理解を図る仕組みを確立

【藤沢西】プロジェクトチーム

- 構成：各学年の総合的な探究の時間の担当(グループ業務とは独立したチーム)
- 特色：学習指導案や学校独自の評価規準表等を学年で共有



Q & A



Q：なぜ総合的な探究の時間を学校全体で取り組まなければならないのでしょうか。

A：これからの社会を生きていくために必要な資質・能力を、教科等横断的な視点で育成する必要があるからです。

変化の激しい社会では、解決が容易でない課題を自ら主体的に見だし、多様な他者と協働しながら対応していくことになります。そのような課題は特定の教科・科目等自身に付けた知識等だけで解決することが難しいです。そこで、総合的な探究の時間と各教科・科目等との関わりを意識しながら、そのような課題に対応していく資質・能力を教科等横断的な視点で育成する必要があります。学校全体で教職員が連携し、その実現を目指しましょう。

Q：教科等横断的な取組を行うためにすべきことは何ですか。

A：テーマを設定し、各教科・科目等の授業に探究活動を取り入れてみましょう。

総合的な探究の時間で育成を目指す資質・能力はその時間だけで育成することはできません。各教科・科目等で身に付けた資質・能力と相互に関連付け、繰り返し様々な学習場面で活用できるように、学習内容や指導計画を工夫することが求められます。また、取組の成果を学校全体で共有することも重要です。

Q：テーマが自分の専門外のため、指導に自信がありません。どのように指導したらよいですか。

A：ファシリテーターとして生徒の活動を支援しましょう。

教職員が生徒に知識や正解を教え込むのではなく、生徒が身に付けた知識等を活用し、使いこなすことが重要です。生徒の探究活動が充実するような選択肢の提示や、情報収集の方法等をアドバイスし、生徒が主体的に活動に取り組めるような仕掛けを工夫しましょう。

Q：校内体制づくりの参考になる取組はありますか。

A：「高等学校教育課程研究集録」が参考になります。

神奈川県では、高等学校教育の改善と充実を図ることを目的に教育課程研究会を設置し、その成果を集録にまとめています。令和元年度の「総合的な探究の時間」部門では、「『総合的な探究の時間』の組織的な取組」をテーマに校内体制づくりに関する実践例をまとめています。

